

AOA東京大会2008レポート

第6回 AOA 大会の開催期間中、3 日間にわたりお手伝いをさせていただきました。本部、支部の皆様、開催準備、当日の対応本当にお疲れ様でした。国際大会ということで同時通訳も準備され、参加者は用意されたレシーバーにより、会議の進捗状況がつぶさに理解できました。耳にかけるタイプのレシーバーでしたが、初めて使用する出席者の方々にも大変聞きやすいと評判でした。こんなに身近に国際大会に参加でき、アジアの中で JOA がどのように活躍できるか、日頃の会員の交流だけでなく、もっとグローバルな観点から考える機会を得られたことが、私自身にとっての貴重な経験になりました。

日頃、様々なセミナーなどに参加した活動内容を自社ホームページの“社員のブログ”に掲載しています。JOA の活動と AOA 東京大会 2008 の成功をブログの読者の皆さんにお伝えしたいと思い、大会終了後すぐに原稿をアップしました。掲載した内容は次のとおりです。

AOA 東京大会 2008

11月14日～16日、第6回 AOA (アジアオストミー協会)の東京大会が国立オリンピック記念総合青少年センターで開催されました。

この大会にはアジア 18ヶ国からオストメイト、医療関係者など 71名が参加し、日本のオストメイト、医師、ET・WOC 看護師、関係者などの百数十名と合わせて二百数十名が出席し、講演や各国のカントリーレポート、パネルディスカッションが行われました。



アジアの多くの国では

アジアには中国、インドの2つの国で世界の人口の半分近くを占めていますが、オストメイトのケアができる専門の医師、看護師はまだ行き届いていません。モンゴルなどにおいては未だ装具も手に入らない状況だそうです。



アジアの多くのオストメイトはより良い QOL の達成にさまざまな困難を抱えていることを深く憂慮し、アジアのオストメイトのより良い QOL を達成し、彼らが幸福な生活を満喫できるよう、より一層の団結と協力に関する宣言が満場一致で採決されました。

若い世代への期待

20 才～40 才の若い世代にフォーカスしたユースフォーラムが開催され、この年代にとって人生

の最も大きなイベントである「結婚」と「仕事」について、体験や事例から積極的に意見交換が行われました。日本とフィリピンの代表は自己の体験を率直に語るだけでなく、まだ不安でいっぱいの新しいオストメイトをサポートしていくグループの取組みについて語る素晴らしい提言でした。今後 AOA では若い世代 20~40 ネットワークの創設と交流に向けて活動が進められ、若い世代のリーダーの活躍が期待されます。

タイの発表者（ET・WOC 看護師）の新しくオストメイトになったばかりの方への心のケアまで含めたサポートの必要性を語る言葉には優しさが溢れていて、出席した人々は口々に感動を伝えていました。

Farwell Party

役員の挨拶のあと、各国の代表によるアトラクションの時間となりました。ホスト国である日本の JOA(日本オストミー協会)東京支部のメンバーが八丈太鼓を披露すれば、マレーシアのメンバーはギターの伴奏で“ 昴 ” や北国の春を日本語と中国語で合唱、日本がアジアのメ



ンバーであることを再認識したひとときでした。タイの代表団メンバーが伝統のドレスに身を包み、各テーブルへのキャンドルサービス、その後優雅なタイ舞踊が始まりました。

速いテンポの曲に誘われ、一人、そしてまた一人と次から次へ踊りの列に加わり、ステージはすぐに満員状態となりました。

パーティーのフィナーレは東京音頭、パーティー会場に大きく広がる踊りの輪、最高の盛り上がりでした。参加者は海外からのメンバーと交流と再会を約束し、大会は成功裏に幕を閉じました。

（三多摩支部 石井 京子 記）

